＊＊＊ 特集　MIRROR WORLDS 2019 SYDNEY 参戦　＊＊＊

◇開催期間　　2018 年 12 月 31 日(日)～2019 年 1 月 6 日（日）
◇開 催 地　　Rose Bay, Sydney NSW, Australia
◇ｵｰｶﾞﾅｲｻﾞｰ　　Woollahra Sailing Club (WSC), International Mirror Class Association, International Mirror Class Association of Australia, International Mirror Class Association of NSW, Australian Sailing

2019　WORLDS　SYDNEY　に参加して

70867　加藤　博

レース海面は、シドニー港のど真ん中でした。港の西の端がハーバーブリッジ、東の端が湾口である、が私の今の勝手な理解です。シドニー湾の地形はリアス式で、広げた指をなぞった線のように、複雑に入り組んでいます。北から南に向けて広げた中指の先端がブラットリーズヘッド（Bradleys Head)、南から北に向けて広げた中指の先端がポイントパイパー（Point Piper)、この先端間を結ぶ線の 東側がレース海面でした。グーグルマップ 2 点間距離測定によると、この間はわずか 1.2km でした。 ここを大型豪華客船、多くの観光フェリーボート、高速&鈍速セーリングボートが行き交っています。水上飛行機の離着水まで結構近くに見ることができました。しかし、貨物船、漁船の類は全く見ませんでした。こんなに多様で多数の船が航行しているのに、海面には一つとして航路を示す浮標はなかったと思います。海上衝突予防法のようなルールを、皆が徹底して守ることにより安全が保たれているのか？ （東京湾の富津岬と観音崎灯台の間は 7km 余りであり、この浦賀水道航路は右側を航行するように浮標で航路を定めています。）

肝心のレースは散々でした。最初のプラクティスレースで、イギリス大会の時と同様にティラーに尻餅をついてティラーを折ってしまいました。これで端から気分が落ち込んでしまいました。第１レースはスタート信号１

分前にスタート・ラインから出て失格（U旗規則）し 60 点、第 2 レースから第 7 レースまではタイムリミットを含め 55 点から 58 点でした。これらほぼすべてのレースでスタート・ラインから上マークまでの四分の一までは 他艇も近くにいましたが、四分の三くらいのところでは他艇に先行され下位数艇になっていました。いかに乗り慣れていないか痛感しました。前回まともに乗ったのは１年半前のイギリス大会で、下手な上に練習不足を反省しました。

加藤/高石組

第 7 レースまでは北寄りの風で暖かく、吹いても 8m/sec 程度でしたが、4 日目（１月５日）第 8 レー スは、太陽は雲に隠れ、冷たい南からの強風に一変しました。《Race Reports に、風速は空港でガスト(瞬間風速) 30kn（15m/sec）であった、と書かれていました》この日のレース海面にはシャーク島（Shark Island、南北 200m東西 100m）が現れ、上マークに向かうまでにこの島を避けるため 度々タックしなければなりませんでした。シャーク島に寄せられた沈艇、マーク回航後の沈艇などを見ながら我々も上マークを回航しました。雨が降っていて見通しが悪かったが後続艇の数はいつもより多かったのです。このレースで 挽回してやれと思っている矢先、自艇が沈をしてしまいました。マストが真下を向く完沈でした。私は起こした艇のフェンダーに両手で掴まり右足を上げ艇内に転がり込もうとしましたが体が上がらず、高石さんに先に上がってもらい、私を引っ張り上げてもらいました。この時の艇の状態はレース続行可能でしたが、この先下マークに行き、上マークまで戻り、下でフィニッシュして、上マークより風上（南）の陸に戻るコースを思い、高石さんと一時顔を見合わせリタイヤーを決意して陸に戻りました。引き続き行われた第 9 レースも棄権し 60 点となりました。陸にあがると稲光に雷鳴が加わりヒョウが降ってきました。5 日目は第 10, 11, 12 レースが行われたが出場せず 60 点でした。《着順が得点となるが、失格・ 棄権は参加艇数 59 艇プラス 1 点となる》結局総合成績は 59 位でした。

3 日目レース後の Nations Night では、各国チームが思い思いの方法でお国柄を披露しました。我がチームは、浴衣 2 着を使い他国チームと二人羽織の対抗戦を行いました。バナナや生クリームを用意して、高石さんがうまく仕切り会場は大盛り上りでした。

6 日目最終日表彰式には、オリンピック金メダリストまたアメリカズカップ winner でもある Tom Slingsby 氏と女性初の世界一周レース winner の Wendy Tuck 氏がプレゼンターに加わり優勝したオランダチームを称賛しました。パーティーでは、紺のワンピースがよく似合う、すらっとしたサラ(Sarah)という婦人と話しすることができました。最初のうちは彼女を選手の家族と思って話していましたが、選手だったのです。中学生くらい

の娘をクルーにして、あの南からの強風が吹いた第 8、9 レースも完走し総合成績は 25 位ということで、たいそうたまげました。

優勝のオランダ艇

我がチームは、シドニーの中心地から電車で 20 分の駅の真上にある自炊可能なホテルに滞在しました。このボンダイジャンクション駅周辺にはスーパーマーケット、レストラン、専門店、薬局など沢山あって生活に不自由はありませんでした。大会期間中は朝 8 時過ぎに朝食をとり、ホテルの下のバスターミナルから 11:40 発のバスに乗り 4km 先のバス停「Rose Bay」下車後、徒歩 8 分で大会会場に行き、14:00 のスタート予告信号に間に合うように出艇の準備をしました。

レースが終わるとチームの 5 人は、同じコースを戻り買い出しをして夕食を作ったり、レストランに行ったりしました。ホテルの大部屋は寝室が 3 つで 4 人までしか泊まれず、私だけ滞在が長かったので 1 人部屋にしました。一人部屋の 1 泊代金は一番安い日が A$212、一番高い 12 月 31 日が A$742 でした（1 豪$=80¥)。この日は夜 9 時と 0 時にカウントダウン花火が打ち上げられるとのことで Circular Quay 周辺は生憎の雨にもかかわらず大変な賑わいだったようです。大部屋からはハーバーブリッジを見通せたので、我々はリビングから雨に曇るガラス越の花火と酒を楽しみました。この度の遠征でチームとして共に過ごし、お世話になった秋田さん夫妻・其田さん・高石さんに感謝します。

Mirror Worlds 参戦記－イギリス・オーストラリアでミラーの魅力を再認識

琵琶湖フリート　秋田　聡

船の大小を問わずヨットにはいろんな楽しみ方がありますね。ミラーのようなちっぽけなヨットでもクルージング派が健在です。海外では大航海のチャレンジがありますね。一方では乗り物ですから２つ以上がそろえば乗り手の技量を競うことになるのは自然な流れです。すぐがちがちにはならないで‥とは思いますが。

ヨットは僅かに長さや幅が変わっただけでその性格・性能は見た目以上に大きく変化しますし、それ以外にも多くの要素があってスピードに影響します。ですから異なった艇種の混ざったレースでは何とか艇種の差を解消してより公平な順位を出すためにヤードスティックナンバーが考案されてきましたが残念ながら決定的なものは存在しないと言ってもよいでしょう。それ以上に誰もが見た目に明瞭な着順に注意をとられてしまいます。残念ながらこの点でミラー級は不満足なヨットでした。

それを解消してレースを楽しむには、どうしてもスクラッチ

レースということになりますね。大会のレベルの高さに応じてクラスルールに従い計測を行い公平さを担保しますが、そのお蔭で乗り手の技量の競争が成り立つわけです。レーザー級は船・艤装品一式を製造段階で徹底的に同一化してこれに応えることで実現した成功例です。普通年に一度実施される各クラスの各種選手権がこれにあたり、さらに範囲と時間軸を加味して希少化したのがオリンピックということでしょう。やはり勝つのは大変です。

スクラッチレースの頂点がワールドで、私がミラー級ワールドに 2 回続けて参加できたのはラッキーでした。毎回同行の皆さんには助けてもらっていて感謝感謝です。前回はイギリス南西端の Cornwall 地方（普通は行くことはないでしょうね）Falmouth に（ここにはミラー#1 が海洋ヨットハーバー博物館に展示してある）。それはそれは貴重な体験でしたし、今回はまさかのハーバーブリッジとオペラハウスを背景にして憧れのシドニー湾ディンギーセーリングです。

いよいよのシドニー湾では風と波に翻弄されて難儀している我々のすぐ目前を練習中の 49 級がスターンのみを海面に載せて 4～5m 先をぶっ飛んで行きます。12m スキフ・モスも限界のスピードを競ってレース海面を切り裂いていきます。それらに比べ数倍の波を蹴散らして走るフルハイクミラーは迫力満点です。が雲泥のスピード差は如何ともし難く、艇の種類の違いを思い知らされます。実はヨットの優劣ではないのですがスピードを比べると‥というわけです。この後に会長艇がミラーの強さを実証することになります。

ひっきりなしに大中の定期船が通過し数十秒後に突然一段と荒れた波が艇を襲います。レースコースは航路にかかっているので近寄らない方が無難ですよとの話に納得。聞いていた通り定期船の減速はなかったですね。構わずに航路を突っ走ります。でも 30～50feet 級のプレジャーボートは近くを通過する時スピードを落としてくれていたようです。日本では全く経験のないことですが、海面が空くのを待ってたのか、遊覧飛行艇が突然目の前に現れます（出艇するヨットクラブのすぐ横に遊覧飛行の基地桟橋があり度々離水・着水します）。動画で見るシドニー湾の風景そのものです。18FOOTER は次週から今年のシリーズが始まるらしくレースコース近くでは出会えなかったことが心残りでした。

このレース海面をかなり多くの親子チーム・祖父母と孫チーム、中学生ぐらいの姉妹チーム・男女のジュニアチーム・夫婦チーム等全てがわが艇の遥か前を遠ざかって行きます（まいったなー）。"練習もしないでましな結果を得ようなんて厚かましい・恥を知れ“。昨年の英国遠征で BBC2 テレビの女性インタビュアーがビックリしてたじゃないですか、準備期

間は”One week only ?"と。もう憧れのシドニー湾でセーリング出来たことだけで納得することにしたのはいいのですが、それだけでは許されません。4 日目の朝は岬では 30knot のガストとかで空は暗雲が垂れ込め出艇延期、だが淡い期待は裏切られて 30 分後には出艇許可、レース海面にはまだまだ風は十分残っている。ごめんなさい、もう帰ります。とは言ったものの帰るに帰れない。大海で暴風雨に遭遇した難破船の心境で最終的に私達は曳航されて帰還できたのだが、会長艇はまだハーバーに帰っていないようだ。後で聞いたのだがブームにトラブルが発生しつつも独力で帰還しスタッフに「よくぞこれで帰って来れたな」と称賛されたとか。一定の技量と根性があれば何とかなるミラーの一面が示された模様。実験で行なうことは難しいがミラーは鍛えれば本当に逞しい船であることが実証されたと思う。スピード追求型のディンギーでは有り得ないと思う。

優勝はオランダ籍の父と娘（12 歳？）チーム、スキッパーの父は実に 3 回のファイアボール級ワールドチャンプになったトップセーラー、昨年の大会で知り合った仲。閉会式ではもう一つのハプニングが‥、あの Tom Slingsby*と Wendy Tuck**がプレゼンテーターを務めることになっていた。こんなわけでミラー級はヨット界でしっかりした地位を確立していて本当に羨ましい限りです。日本でも先ずは何とか 2 桁のミラーでクラブ練習を、2 桁の選手権大会を目指していきたいですね。現在ミラー級は多くの国に普及しているとはいえワールドに参加するのは 5〜6 ヵ国に過ぎないようです。IYRU のワールド認定条件は 5 ヶ国以上の参加が満たされなければならないので、特にオーストラリアにとっては欧州から遠いこともあって日本の参加抜きでは考えられないそうです。

高石幹事の指揮で加藤・其田共演の「二人羽織」がナショナルデーの余興ではダントツの評価を得て留飲を下げたことや、いつもの緑茶セレモニーと折り紙パーフォーマンスの他に日本のハイテク紹介「精密コマ」をプレゼント。数分間微動だにせず 5 分・7 分と回転を続けるコマに一同ビックリ、こちらは鼻高々。周りのミラーマンにはその内に堂々たる参加で勝ちに行きますよと言っておいたので後は皆さん宜しくお願い致します（老兵は消え去るのみ）。

大会中を通じてお世話になった Diane Vukelic 女史（34 位）には大いに感謝したい。ヨットクラブの主要なスタッフで日本語が達者かつ日本贔屓、大会後には私たち 2 人と彼女の家族 4 人一緒に自宅近くのイタリア料理店で会話と食事を楽しみました。娘さんは 3 月に短期留学で日本に来ていたはず。

シドニーでは国立海洋博物館へ、桟橋付けのエンデバー号実物大レプリカ（実際に帆走可能）に乗り大型帆船を隅々まで覗いて回りました。立って歩けないほど天井の低い船室で多くの男が数ヶ月過ごすんですね。行きがけにニュージーランドにもちょっと寄り道し、やはり国立海洋博物館を見物しました。ヨットの王国ニュージーランド、今回はオークランドだけでたった１日だけの見物でした。悲劇のアメリカズカッパー（モノハル艇）とそこに至るまでのディンギーの数々、凄かったですね。

次期ミラーワールドは 2021 の夏にアイルランドの北西部、北アイルランド国境に近い Sligo Yacht Club で行なわれることが決まっています。大会に誰かが楽しく参加を続けていく中で、時には勝ちにいく時がくることを期待します。いつまでもテールエンドではやはりつまらんですから。

アイルランド Sligo の街

＊Tom Slingsby はオリンピックレーザー級ゴールドメダリストでありアメリカズカップの S&G 勝者でもある。彼を知らないヨット乗りは世にいない。＊＊Wendy Tuck はクリッパーラウンドワールドのスキッパーでかつ世界一周レースで勝った最初の女性セーラー。

～　国際ミラークラス会議　出席報告　～

2019 年 1 月 5 日 Woollahara Sailing Club にて

レポート：高石芳徳

早いもので半年以上が経ちましたが、今年のはじめに参加した「2019 Mirror World」については既刊「Mirror Mate No.95」への加藤さん、秋田さんからの寄稿の通り、すばらしい環境のもと、最高のホスピタリティーでセーリングを楽しむ事ができました。

さて、その Mirror World 開催期間中に毎回催されている「International Mirror Class Association（以下、IMCA）General Meeting」に出席いたしました。

前回の会議は 2017 年に英国 Falmouth での World の際に行われており、今回もレース期間中の夕方に開催されました。会議には IMCA に加盟する各国よりシドニー大会に参加していた国の代表の方々が参加し、事務局であるオーストラリアの Celia Mrs. により進行されました。参加国はオーストラリア、カナダ、アイルランド、南アフリカ共和国、英国、日本。

左　前代表 Kuba Miszewski Mr.（南ア）
右　事務局/会計　Celia May Ms.（豪州）

１．2021 年 World

IMCA では、当初、カリブ海にある英連邦王国のひとつである Barbados（バルバドス）での開催に向け、諸調査を進めてきた。現地 Barbados Sailing Association(バルバドスセーリング協会)は Mirror World の開催にとても協力的で全面的な支援をするとの事であった。

しかしながら現地でのオーガナイザーが定まらず残念ながら Barbados での開催を諦めることとなった。(この間、Finn World の開催調査も行われていた。)

そのようなところに、アイルランドより開催に向けての受入提案があり、Sligo Yacht Club（スライゴ ヨットクラブ）での開催が確定した。

Sligo Yacht Club　：　http://www.sligoyachtclub.ie/

２．Whale spar

「Whale spar」社から Mirror Mast の供給の提案があったが、その後具体的な展開には進んでいない。

３．代表であった Kuba Miszewski Mr.からのコメント（本会議にて退任）

ミラークラスはクルージング、家族でのセーリングそして本格的なレースと様々な場面で楽しむ事ができる比較的安価なボートであることは世界中で評価されている。

世の中には様々な新しいクラスが出来ているが、1 年半前に World が開催された英国 Cornwall では、オリンピックでの Sailing 競技にも適用されるルールをもとに、非常に長い準備期間を経て開催され、これにより IMCA では自信を持ち、素晴らしいレース経験を重ねる事ができている。

2021 年にはアイルランド Sligo での World が開催される。この開催に向け、様々な準備に力を合わせ、素晴らしいレースになる事を望む。

４．会計からの報告

2018 年　12 月末　総資金　GBP 9,884.73

５．監査役指名

Douglas Raftesath および、Stan Bland とする。

6．各国登録艇数

国名	艇数
オーストラリア	73
カナダ	23
アイルランド	32
日　本	21
南アフリカ	35
英　国	60

※IMCA CANADA（カナダミラークラス協会）には、3フリートが所属していたが､残念ながら2018年をもち､IMCAから退会することとなった。それに伴い、カナダ協会資産のうち50%がIMCAに寄付され、若手育成の為の基金として蓄える事とした。

参考：2019年現在 IMCA加盟協会国　オーストラリア、英国、アイルランド、オランダ、南アフリカ、アメリカ、スウェーデン、日本

7．役員選出　（2019年～）

President（代表）　Douglas Raftesath（オーストラリア）
Vice President（副代表）　Emmet Duffy（アイルランド）
Secretary/Treasurer（事務局/会計）　Celia May（オーストラリア）
Convener R&TC（レース・技術委員長）　Martin Egan（英国）

8．ルール・テクニカル 委員会

従来から委員長を務めているMartin Egan Mr.（英国）が引き続き務める事となり、各国の代表者が確認された。

日本からはOP級にてJSAF Chef Measurerとしてご活躍の荒川会員を継続として報告させていただいた。

9．今後のWorld開催予定

開催時期	開催地
2021年（8月？）	アイルランド　Sligo Yacht Club
2023年	南アフリカ
2025年	北半球　（未定）

※次回開催が決まったアイルランド「Sligo Yacht Club」については、また別の機会に皆さんに、詳しくご紹介したいと思います。

１０．カーボンマストの研究

当初の木製マストによるGaff Rigからアルミマストに進化したミラークラスだが、アルミマストの価格は年々上昇してきており、現在オーストラリアではAUD 2,000を越えるものとなっている。一方、カーボン素材による安価なマストの提供も可能となってきている。

今後、価格の上昇観点と、パフォーマンスの向上を目的に、英国で多くのミラー用マストを供給するメーカーなど、各国での状況も調査しながら、現在、Gaff rigでアルミマストの上部に木製を使用している点を、アルミマストにカーボン素材の上部にすること、Bermuda rigでのカーボン素材の使用などについて、調査することとした。

１１．閉　会

Douglas新会長の今後の活躍とKuba前会長のご貢献を皆で祝し閉会とした。

～　会議に参加して　～

IMCAの代表者会議については前回の英国Falmouthでの開催に続き、2度目の参加をさせていただきました。会議参加者の方々とは1年半ぶりの再会となりましたが、皆さんとてもフレンドリーで日本からの参加を心から喜んでいただきました。雑談の中ではオリンピックセーリング競技に向けての日本のセーリング会の動向はさることながら、日本でのミラークラスの活動状況を非常に興味深く聞かれました。

その中で、日本ミラークラス協会としてのレースが、1年に1回である事を話すと、皆で運営の応援に行くから開催回数を増やしては？とか、2025年のMirror Worldは日本で開催しては？などなど、何処までこの方々は本気で話しているのかと感じたものです。

Mirror Worlds Sydney 参加者の面々
加藤、其田、秋田夫妻、高石

バイキングレッドのセールで、小さいながらも力強い（？）ミラーは、日本ではそれほどメジャーではありませんが、世界に目を向けると、多くのセーラーが愛する素晴らしい船であることをあらためて感じたと共に、これから益々の日本ミラークラス協会発展を心に描いた会議でした。（完）